

米国北西部のサクランボ 収穫量は平年並みだが品質は良い

[FreshPlaza 2024年7月3日](#)

米国の太平洋岸北西部では約1カ月前にサクランボの収穫が始まったが、これはほぼ平年並みであった。収穫までの気温は平年より低く、種々の生育条件のために着果量は全体的に少なくなった。レーニアフルーツ社のテイラー・ジョンソン氏は、「しかし、それぞれの果粒が成長する余地が増えたことで、成熟は順調に進んだ。着果量が少ないことは、品質とサイズが素晴らしいことにもつながった」と言う。(以下「」は同氏の発言)

天候の影響に備える 低い気温は収穫まで続いた。「これまでのところ、収穫期の天候は少し厄介だ。収穫の最初の1カ月は気温が低く風があったが、天候は良くなってきている。」このような年は、果樹園への投資に価値がある理由を思い出させてくれる点で重要である。防護ネット、園内の水冷装置、及びトレリスでの栽培は、母なる自然の気まぐれへの対抗措置として重要な役割を果たすことができる。

スキーナやレーニアといった高級品種については、同社では大玉に偏っている。「これらの品種は店頭で本当に際立っており、素晴らしい食体験を提供する。今シーズンは確かに全体的に豊作ではないが、販促活動を行う余地はある。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

イスラエル 柑橘類シーズンの前半は良好、後半はやや厳しかった

[FreshPlaza 2024年7月3日](#)

イスラエルの生産者協同組合グラノット・フレッシュの輸出マネージャーであるヨナタン・メロン氏は、前回の柑橘類シーズンを振り返り、「市場は我々に開かれており、需要は十分にある。もっと多くの柑橘類があれば、ヨーロッパやアメリカに更に多く供給できたはずだ」と言う(以下「」は同氏の発言)。しかし、課題がなかったわけではない。2023年10月7日の出来事(戦争の始まり)を受けて、新しい現実に適応しなければならなかった。最大の課題は労働力であり、すでに問題となっていたが、状況の変化によってさらに悪化した。

「丁度戦争が始まった頃に、スイーティー(スウィーティー)の収穫が始まった。その結果労働力に大きな問題が発生し、一年を通して我々を悩ませた。多くの労働者が、ヨルダン川西岸地区から来ることができなくなった。他の人が手伝いに来たが、オッリやスイーティーの収穫にはスキルが必要なため、簡単ではなかった。最終的には、良好な協力を得てやり遂げたが、生産者にとっては高いコストがかかった。」

オッリ・クレメンタインの輸出が減少 上記の課題は、オッリ・クレメンタインの収穫量の一部喪失を意味した。「昨シーズンの収穫予測は、イスラエルの柑橘類部門全体で既に例年を下回っていた。多くの生産者が作物を全部収穫するのに十分な労働者を確保できなかったため、輸出量は最終的に約35%減少した。」

その結果、出荷シーズンの初めには、オッリ・クレメンタインの市況は良かった。例年と異なり、1月上旬の市場は好調であった。しかし、2月には例年よりも低い水準に落ち込んだ。例年3月中旬から価格が上昇するが、今年はそうではなかった。ヨナタン氏は、スペイン産のオッリ・クレメンタインの量が増えていることが原因だと指摘する。それでも、ヨーロッパと米国を中心に継続的な需要があるため、同氏はイスラエル産オッリ・クレメンタインの堅実な未来を予見している。

需要の少ないグレープフルーツ 同協同組合は、9月下旬に赤肉系グレープフルーツのヨーロッパ向け輸出を開始し、12月まで堅調な需要があった。出荷シーズン後半は米国市場に注力し、こちらも良い結果を残した。一方、イスラエル特有の緑色の甘いグレープフルーツであるスイーティーの輸出は、一層の困難に直面した。「昨シーズン、イスラエルは約7千トンのスイーティーを輸出した。その前のシーズンは約1万トンであった。これは約30%の減少であるが、主に品質の問題と需要の減少によるものである。」特に、かつてスイーティーの人気の高かった日本では、現在は需要が約30%減少している。

気候変動への備えは十分 同協同組合の柑橘類担当マネージャーであるヤコブ・アーモン氏によると、もう一つの課題は気候変動である。同組合は、灌漑に再生水を使用し、果樹園に防護ネットを設置することで準備を整えている。同氏は、このような状況に備えているので、影響はいくらか少ないかも知れないと話す。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の団体や製品を推奨するものではありません。)